

## 裾野麗峰山の会山行報告書

文・井上弘二郎 写真・後藤隆徳

山行番 NO. 1635  
日時 2015. 03. 21 (土) 快晴・下部無風・上部やや風あり (前日および翌日移動)  
山域 八方尾根～唐松岳(2696m)～山岳スキー  
標高差 上り＝八方山荘約1850m～唐松岳2696m＝約846m  
下り＝ 同上  
参加者 後藤、井上＝2名

### 03月20日(金)

19:00 後藤さんの車で長泉出発。富士五湖道路、中央道(御坂IC～安曇野IC)。23:30、大町の公園で車中泊。意外と眠れた。

### 03月21日(土)

5:00起床、八方尾根スキー場 Gondola 乗り場下の駐車場へ移動。すでに10台近く停まっていた。6:00 コンビニおにぎりを食べ、身支度を始めた。

7:00、Gondola のチケット売り場にて、30人位の後ろに並ぶ。7:30 Gondola に乗る(約8分)。積雪は約1mくらい。天気は無風快晴。続いて4人乗りリフトを2つ乗り継ぐ。登山開始の八方山荘は標高1850mここから登山道にはずーっと人が繋がって見える。夏の富士山みたいだ。100人以上はいるだろう。ほとんどが登山者だ。

スキーにシールをつけて登るのだが、持ってきたシールが短くスキー板の長さに合わない。以前にスキーのセットを誰かに貸した時、違うシールが入って戻ってきたようだ。その結果、後藤さんはシール歩行、私はスキーを担ぎスキーブーツにアイゼンという違うスタイルで登ることになった。

8:30、八方山荘発。スキーブーツの中が狭く足の指が痛い、そのうち慣れるだろう。背負ったスキーは重く、ザックと背中の中に差し込んだピッケルが背に当たり痛い。後藤さんとの距離が広がっていく。他の登山者にも抜かれていく。また、周りの人は涼しい顔でどんどん登るが、私はハアハアと呼吸は荒くひどく疲れる。数歩進んでは立ち止まる、の連続だった。

右手には白馬の山々が連なり、左手には鹿島槍が見え、その手前に五竜岳が迫る。立ち止まって休むたび、眺めるには最高の景色だ。特に五竜岳の積雪はセロファンのようにきらきらと輝いていた。

尾根を歩くが、そこから下の斜面には全体に茶畑のように連続した畝のような模様が見える。初めて見るこの風景は雪の風紋だと思い、きれいなものだと感心していた。実際は大雪と大雨があり雪面に大きな流水跡が発生し、でこぼこの形状になっていたのだった。

11時ごろから強風にさらされるようになった。それまで無風で熱く、上はTシャツ一枚で下もカッパのズボンをまくり上げていた。服を着込み、バラクラバ(目出し帽)をかぶる。あまりにも鼻が冷たくなるので鼻まで覆うが、覆うと今度は息苦しくなり外すを繰り返した。

11:30頃丸山上にスキーをデポして、ここから2人共スキー靴で上る。手袋は極寒仕様に変更。ミトンを含む3枚重ねだ。スキーをおろすと信じられないほど体が軽くなり大いにはしゃいだ。しかし、登りだせばまた苦しいことには変わりはない。驚くことに後藤さんがペースを落とした。スキーブーツ歩行になり足首が十分に曲がらず調子が出ないとのこと。

12:00八方尾根頭のピーク到着。そこには思わず息をのむ剣岳の神々しい姿があった。風



後立山デビュー



上の樺



唐松岳



唐松沢を滑る  
遭難者??

は強いがここで昼ごはんとした。冷たいおにぎりはおいしくなかった。2人とも1つだけ食べ、あとは残した。風はやまず、じっとしていると寒いのでさっさと出発することにした。ぐっと下り、またぐっと上る。最後の登りはピッケルが役に立つような急な角度だ。ストックではうまく登れそうにない。しかしこんなところが私は好きだ。ぐいぐいと上られるので気持ちがいい。

12:50、ついに唐松岳登頂2696m頂上は割と狭いので、写真を撮って早々に戻ることにした。

頂上手前の沢は信じられない急斜面だが、数人のスキーヤーとボーダーが慣れた感じでチャレンジしていた。その後、このあたりに救助のヘリが飛んできた。(翌日の新聞によると、女性スキーヤーが首の骨を骨折したとのことだった。ゾ～!!)

スキーデポ地点に戻りスキーを装着。ヘルメットもかぶる。ガラガラ沢に行く予定だったが変更し、登ってきたルートに戻るようだ。まず45度くらいの傾斜のところを斜滑降でトラバースし、傾斜がゆるくなった所でターンする。ゆるくなったところというのは、登りの時に風紋だと思っていたところで、実際には、1m間隔で深さ50cm程の溝があり、これが凍っている(氷化縦溝斜面)。見た目は茶畑を想像させる。この凸凹の凸を乗り越えた瞬間、スキーが加速し後傾になり、スキーが回らず、転ぶ。縦溝が連続するのでボーゲンも維持できない。

お手上げ。私の技術では滑ることができない。落ちたら、どこまでも落ちそうだし、たとえ止まったとしても戻ってこれそうにない。トラバースは、これまた困難だ。傾斜がきつすぎてストックがうまく突けず体を押し出せないし、左足は上げっぱなしで、右足だけに体重を乗せ続けるので疲れが蓄積していく。どうしようもない。一度尾根に戻り、板を外して歩く。歩くことでまた後藤さんとの距離が離れていくので、もう一度スキーをつけてトラバースで追いつこうと考えた。でもやっぱりうまく移動ができない。

もたもたしてはトラバースも滑落の心配があるので、こうなったら少し下り気味にすべり、最後は横歩きで尾根に戻ることに決めた。甘かった。45度斜面の深い雪では横歩きは不可能だった。なんとかして尾根に上り、後藤さんのところに行かないといけない。スキー板を外し両手に持って雪に突き刺し、雪が膝まである斜面を2歩ずつ登った。50mはあるだろうか。なんとか登り切り、もう一度スキーを履いて遠くで待っていてくれる後藤さんのところに到達した。その間も何度も転び、立上るのに脚に力が入らず苦勞した。ここからは、けがが心配と、後藤さんもスキーを外し歩いて下りることになった。

リフト降り場まで来て、後藤さんはゲレンデを滑って下りることにしたが、私はもうスキーをコントロールする力が残っていないので、リフトで下ることにした。リフトとゴンドラでくんだり、ゴンドラの最終運転時刻16:30ぎりぎりまで戻ることができた。駐車場に着くと、もう後藤さんが片付けをしていた。ゲレンデも夕方になりこぶが深くなりすぎ大変になったので、最後はゴンドラを使ったようだ。

宿は民宿「はばうえ」。(建物の前に断層があり、その上に建っている所以この屋号とのこと。断層の下は、「はばした」ではなく「はばね」というらしい。余談)風呂とおいしい料理と酒で癒されていく。翌日の山行は、朝起きてから考えることにした。10時前に布団に入るが、疲れすぎて1時ごろまで眠れなかった。

### 03月22日(日)

6:00起床。2日目は白馬乗鞍岳の雪山登山と山岳スキーの計画だったが、2人とも1日目の唐松岳で疲労困憊だったので2日目は中止とした。昨夜より大分よくなったが、体全体あちこちが痛い。

7:00朝食。おいしいごはんを何杯もおかわりした。おみやげにリンゴを2個ずつ頂いた。



7:50宿を出発。途中、豊科に住んでいらっしゃるカモシカスポーツ社長のダンプさん（高橋和之氏）の自宅を訪問した。おいしいコーヒーのおもてなしを受けた。日曜日の天気の良い朝に長野から長泉へ戻るのは前代未聞だ。13:00長泉着。

今回は、登山はサイコー、スキーはサイテーだった。課題は、華麗なるスキーを身につけること。両足でのスキー制御ができないと、厳しい条件ではスキーにならない。怪我がなかったことが一番よかったと思う。なんどもヤバイと心の中で思った。ドクターヘリを見た時は、今回気を抜いたらきっとあれに乗ることになると思った。そうすると生まれて初めての下りのリフトに乗ることも、ちゃんと判断したのだと思い恥ずかしくはなかった。まあ、所詮自然には勝てないのだ。怪我もなく、安全に家に帰ってこられてよかった。



唐松岳頂上



五竜岳

#### その他の記述（後藤）

1. 久しぶりの前夜発。車中泊は、扇沢に入る手前の除雪基地（?）。以前、使ったことがあるが、トイレもあり静かでゲー。エルグランドは、完璧にフラットになるのでサイコー。
2. 八方尾根は。ゴンドラ直ぐのいつもの所に駐車。1日=600ー。以前は500ー。値上がりした。
3. ゴンドラは、1日券だと割引があるが、片道はなかった。

4. 登山者の物凄い人数に驚いた。ボード・スキーヤーは極めて少ない。土日だが、21日が祭日で出掛けやすかったか？
5. 登山者に高年齢男女・女性単独が多く、驚いた。
6. 例によって、95%はストック登山者だった。
7. 八方尾根頭に出る雪壁は、雪が多く全く問題なかった。むしろ残雪期のが悪い。
8. 行動食のおむすびは、冷えてマズかった。やっぱり、お稲荷さんか？
9. 事故者は、唐松沢の輩かDルンゼの輩か不明。しかし、首骨折でよく生きていた??!!あの硬い雪では無理だ。
10. しかし、あの雨溝を上手く滑る方はいることはいる。ますます山岳スキーに自信をなくした。ま、元々自信はないが??!!(笑)山岳スキーの神様H氏も槍ヶ岳で、この雨溝に苦労したとの報告があった。こんなに難しい八方は初めてだった。
11. 民宿「はぼうえ」の息子が22日、就職で富山に発った。義手・義足などを作る会社とのこと。長野オリンピックで影響を受けたと聞いた。また、それを学ぶ大学があり、卒業したそうだ。
12. 今回もゼーゼーハーハー厳しいこと、このうえなかった。やっぱり夜行は厳しいかもです。
13. ダンプさんは、私より4歳上の72歳。まだまだ、元気イッパイだ。

おわり



右・ダンプさん  
豊科の自宅にて



【費用メモ】

往路	富士五湖道路	530 円+530 円
	中央道	3200 円（御坂 IC～安曇野 IC）
洗車		1000 円
駐車料		600 円
復路	中央道	2240 円（休日割引）
	富士五湖道路	370 円+370 円（休日割引）
燃料		5774 円（軽油・512km＝約 11.3km/L）

宿泊 8750 円（朝夕食付。瓶ビールは別 500 円）